

2021年6月6日

## 主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒216番（聖歌 521番）

『キリストには代えられません』

聖書⇒ヨハネの黙示録 14:13節

『また、わたしは天からこう告げる声を聞いた。「書き記せ。『今から後、主に結ばれて死ぬ人は幸いである』と。』“霊”も言う。「然り。彼らは労苦を解かれて、安らぎを得る。その行いが報われるからである。』』

礼拝讃美歌⇒523番（旧 135番）

『イエス君にありて』

聖書⇒コヘレトの言葉 3:1~11節

『何事にも時があり／天の下の出来事にはすべて定められた時がある。

生まれる時、死ぬ時／植える時、植えたものを抜く時

殺す時、癒す時／破壊する時、建てる時

泣く時、笑う時／嘆く時、踊る時

石を放つ時、石を集める時／抱擁の時、抱擁を遠ざける時

求める時、失う時／保つ時、放つ時

裂く時、縫う時／黙する時、語る時

愛する時、憎む時／戦いの時、平和の時。

人が労苦してみたところで何になろう。わたしは、神が人の子らにお与えになった務めを見極めた。神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。それでもなお、神のなさる業を始めから終りまで見極めることは許されていない。』

礼拝讃美歌⇒327番（旧 95番）

『われの時』

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11:23~28節

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。従って、ふさわしくないままで主のパンを食べたり、その杯を飲んだりする者は、主の体と血に対して罪を犯すことになります。だれでも、

自分をよく確かめたうえで、そのパンを食べ、その杯から飲むべきです。』

礼拝讃美歌⇒142番（旧 58番）

『渡されたもう』

《建徳》

聖書⇒マタイによる福音書 6:1～6節

『「見てもらおうとして、人の前で善行をしないように注意なさい。さもないと、あなたがたの天の父のもとで報いをいただけないことになる。だから、あなたは施しをするときには、偽善者たちが人からほめられようと会堂や街角でするように、自分の前でラッパを吹き鳴らしてはならない。はっきりあなたがたに言うておく。彼らは既に報いを受けている。施しをするときは、右の手のすることを左の手に知らせてはならない。あなたの施しを人目につかせないためである。そうすれば、隠れたことを見ておられる父が、あなたに報いてくださる。』

「祈るときにも、あなたがたは偽善者のようであってはならない。偽善者たちは、人に見てもらおうと、会堂や大通りの角に立って祈りたがる。はっきり言うておく。彼らは既に報いを受けている。だから、あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。』

聖書⇒マタイによる福音書 16:24節

『それから、弟子たちに言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。』

聖書⇒ガラテヤの信徒への手紙 2:19～20a節

『わたしは神に対して生きるために、律法に対しては律法によって死んだのです。わたしは、キリストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。』

礼拝讃美歌⇒15番（旧 142番）

『ものみな廃るも』

《建徳要旨》

『人の目よりも先に、神の目を意識する』

マタイ 6章 1～6節：あなたは施しをするときには、偽善者たちが人からほめられようと会堂や街角でするように、自分の前でラッパを吹き鳴らしてはならない。偽善者とはファリサイ人らのことで、彼ら

のすることは、すべて人に見せるためでした（マタイ 23 章 5 節）。神よりも目に見える人を意識し、人からの称賛を第一に求めました。ほめられたいのは、万人の求め。しかし、人からの報いを受け取ったら、神からのもっと大きな報いは与えられません。人からの称賛は、得意がらせ高ぶらせてしまう。しかし、神からの称賛は、人を低く謙遜にし、その霊性を幸いにします。「キリスト教は御利益宗教ではない」と言われたりしますが、主イエスは神からの報いを約束しています。**隠れたことを見ておられる父が、あなたに報いてくださる**（4 節）と。ただし、人からの報いを先に受け取ったら、神からの報いはありません。

だから、**右の手のすることを左の手に知らせてはならない**（3 節）のです。右の手＝善行、施し。左の手＝虚栄心、報いを求める自我。だから、これは不可能。もし出来るとしたら、自分自身から解き放たれている人にだけ。人に良く思われようとの思いから解放され、神を第一に出来る人だから。そこに本当の自由があります。その自由を与えるため、主イエスは「私について来たい者は、**自分を捨て、自分の十字架を背負って、私に従いなさい**」（マタイ 16 章 24 節）と、言われた。最初、これは無理な要求だと思いました。しかし、そうではないのです。自我は十字架によってのみ死に、キリストと入れ替わるからです。生きているのは、もはや私ではない、キリストが私の内に生きておられるのです。

いつも目の前に父神を見ていたキリストが、私の内に生きておられる。だから、人からの称賛に左右されない。そして、野の花を見よ、空の鳥を見よ、と指差されます。人からどう見られるかではなく、自分を今の所に置かれた父なる神を第一に意識しているからです。（K・H）

聖書の言葉： あなた方が祈るときは、異邦人のようにくどくどと述べてはならない。異邦人は、言葉数が多いければ、聞き入れられると思込んでいる。彼らのまねをしてはならない。あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ。だから、こう祈りなさい。「天におられるわたしたちの父よ・・・」（マタイ 6 章 7～9 節）